

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271300251		
法人名	有限会社 高梨ウェルビーイング		
事業所名	あったかさん		
所在地	千葉県野田市上花輪595		
自己評価作成日	平成21年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/">http://kaigo.chibakenshakyo.com/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成21年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした時間の中で、おひとりおひとりの能力、好み意欲を生かしていきいきと暮らしていただけるよう見守っています。家族、知人、地域の人達との交流がさかんで、ご自分の気持ちの発動をくらしの中で決定実現できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々のケアでは、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い、能力、好み、意欲を生かし、活き活きと生活できるよう支援されている。ホーム内では、利用者が楽しんで参加できるレクリエーションの開催、家族も参加しての誕生会、ホーム外においても、ウッドデッキのスペースを活用しての食事会や、ミニ菜園での野菜栽培、地域行事への参加等、利用者の意向に沿って、様々な工夫が図られている。近隣とも良好な関係が築かれている。ホームでは毎年感謝祭を開催し、多くの方がホームに足を運ばれている。今年で開設10年を迎え、これまで培ってきた経験を生かし、あったかさんのケアが、より発展されていくことに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた介護をめざし現場でもそれが生かされていると思うが、あらためて確認しあうことが少ない。	ホームの理念に関しては、「運営規程第2条」に明記されており、会議や申し送りを通じ、職員間で理念を共有しており、職員間においても理解が深まっている状況である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が旧来の住民として地域と交流しており、その関係が日常的に続いている。	近隣との関係は、良好な関係が築かれている。年に一度、地域の方向けに感謝祭を開催し、近隣の方との交流充実に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が(あるいは個人で)地域の福祉行政に参加させてもらっており、その中で認知症介護を導入してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のメンバーの方には、会議のみならず、事業所の行事その他を通じてサービスの理解と向上を図っていただいている。	運営推進会議には、市の担当者、民生委員、町内会役員、家族等が参加されている。今年度においては、感染症対策、緊急時の連絡体制等の報告が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市も「あったかさん」の取り組みをよく理解してくれているが、福祉行政の流れの中で共に嘆くことも多い。	市の担当者とは、日頃から連絡を密に図り、今年度は、高齢者福祉課の「市内サービス向上委員会」に出席し、ホームの取り組みを介護相談員や市の職員に説明し、協力関係を築くよう取り組まれた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロは目標としているが認知症の場合は、ゼロになりえない場合もある。	県の主催する「身体拘束廃止に向けた研修」に参加をし、身体拘束廃止に向けた理解を深めている。日中は玄関のカギは施錠せず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、ことばかけの中にもあらわれることを注意している。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	近隣の成年後見人の方との連絡があり、入所時にも制度の説明と活用をすすめている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を充分に行い将来におこりうる変化についても充分説明している。(入院退所等)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケート等を実施することもあるが、家族の来訪が多いため、その都度要望を聞いている。	家族の要望を把握するために、アンケート調査の実施のほか、来訪時に直接要望を聞き取り、要望が出た際には迅速な対応を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で意見を聞くがやはり日常の会話の中で意見を聞くことが多い。	代表者や管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図っており、日々職員の要望や意見収集に取り組み、働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	すべての職員が不満なく就労してもらえるよう、給与水準、労働時間、有給などの整備に留意。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に「あったかさん」の認知症介護を理解してもらい、介護にあらわせるよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国ネットワーク等の交流、市の事業者会議連絡会などで交流を図り、他施設の新人研修受け入れもお互いのプラスになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の出会い、家庭訪問、おためし入居などをセッティングし、その中で安心と信頼がめばえるように力を注いでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定にあたっては、ご家族の不安を解消し、これからのより良い家族関係構築を提示。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご紹介いただいたケアマネさん等との情報交換により、今の段階ではどのサービスが最適かを相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員との関係は、親と子、祖母と孫、姉(職員)と妹、さまざまな形をとり、その中で共に支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と支えるチームとしてご家族と職員が共働きの形で手を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所で友人と出あえる可能性のある外出の仕方など工夫して、いつもの町に住んでいる状態を保持している。	ホームに入居後においても、これまで通い慣れた美容院やスーパー、喫茶店の利用など、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆったりとした雰囲気の中で、交流し合えるように、孤立したり、けんかしたりしないように介入にも緊張が走る。		

あつたかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去があっても、今までの関係を維持し、相談や支援を続けており、退去後のご家族の来訪も多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にならないアプローチや、ご家族の知らない希望もあり、その人の今現在の意向を察知してあげることに努めている。	利用者からの訴えについては、「日誌」、「連絡ノート」に記載をし、職員間で情報を共有している。自ら訴えが困難な場合には、家族との連携を図り本人本位となるよう検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族のお話や、それまでの介護職の話などから、どんな生活歴かを把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の生活の気付いた点、対応した点、すべてその日のリーダーに報告して、それを理解記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に作成した介護計画も日々の見直しをご家族と相談しながら進化している。	ケアプラン作成に関しては、本人、家族の要望を聞き取り、ケアカンファレンスにて職員の意見も取り入れた上で、一人ひとりの状態に応じた短期、長期の目標が設定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の健康状態、心理状態、有する能力の増加、細かく記録し見直し、スタッフ・家族で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりの24時間を支えるため、サービスの種別を考えることはない。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のサービスも、高齢者ひとりひとりに向いてきており、運動機能向上や食生活向上など、ボランティアを含めた地域の資源も増えて助かっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ひとりひとりのかかりつけ医との関係の継続、又ホームドクターとの新しい関係の構築の中で安心して医療がうけられている。	ホームでは、利用者一人ひとりの希望に応じた、かかりつけ医に受診できるよう支援されている。また、ホームと提携しているクリニックによる往診が月2回あり、担当医とも連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは医師の指示や服薬の細かい点の相談をしたり、細かな情報をもちよって介護計画を作るため協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	なじみの病院が多く本人やご家族の希望がよく伝わるよう、あるいはその中だちをするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より重度化の必然性を理解していたが、その時がきたら、すべての関係者が協働して支援してゆくことを約束している。	重度化した場合や終末期の方針に関しては、入居時に、ホームとしての方針を説明し、重度化や終末期を迎えた際には、家族からの相談に応じ、関係者と連携を図り対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習や感染症講習、事故発生時の講習など、内外の指導をうけているが、実際に対応できるか不安である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練など近隣の方達と行っているが実際には、近くのお年寄りを含めた避難計画が必要である。	突発的な災害に備え、ホームでは、近隣の方も交え、年2回、消防署と連携をし、避難訓練を実施している。また、毎月自主訓練を実施しており、災害時において安全に避難できるよう取り組まれている。	今後においては、近隣のお年寄りを含めた避難計画も独自に作成されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格や生活を尊重し、ことばかけ(特にトイレや入浴時に)でプライドを傷つけぬように心がけている。	職員の介護方針である「敬う心と敬う言葉」に基づき、職員一人ひとりが利用者に対して、誇りやプライバシーを損ねないよう、不適切な対応にならないよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向をキャッチし、それが自己決定、自己実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々はその人その人のペースで進んでゆくが、ある程度、生活のリズムをくずさぬ方向もキープしていかなければならない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋品店や化粧品、美容院への外出の支援、あるいは整容おしゃれの意欲が失われないような声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番のたのしみであるメニューの決定、買い物、調理、後片付け・・・ひとりひとりの技量にあわせて共働している。	食事メニューに関しては、利用者からの要望を聞き、栄養バランスを考慮し、メニューに反映している。食事の準備や後片付け、買い物等においても、利用者の状態を考慮した上で、利用者とともに取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの塩分、糖分、水分、カロリー、食事量、ひとりひとりその日その日で、調節し、良い排便にも結びついている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、義歯のケア歯間のチェックあるいは歯科医と相談してのチェックをかかさない。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを知って声かけし、しっばいを失くし、リハパンを布パンツにするなど、自立に近づけることができる。	利用者一人ひとりの排泄パターンを排泄表で確認をし、トイレへの誘導を促している。また、リハビリパンツを着用している方は布パンツへ移行するなど、おむつ類の使用を減らし、自立に向け支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の解消は生活の重要なポイント。食事の工夫で排泄誘導、散歩、体操でも。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が原則だが、その日の体調、本人希望によりとりやめることも。中には、入浴拒否傾向の人もあって、声かけして支援。	入浴は、利用者の体調を置考慮し、毎日入浴できるよう支援されている。入浴中は職員が介助に入り、安全に入浴できるよう支援するほか、拒否が見られる場合には、無理強いせず、本人のタイミングで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息(昼寝も)本人希望、スタッフ判断で随時に、安眠のためには運動、体操、知的運動等をかかさない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医からの薬のうけとりから、日々の服薬支援、細かい変化による医師への報告、量の調節など細かく支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割を求めている人が多い。少しずつでもできる範囲で支援。楽しみごと、集団であったり個人であったりの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の散歩、買物、ドライブ、お茶のみ外出などは日常的に、町の行事への参加、墓参り、帰宅等のご家族とともに支援。	天候のよい日には、午前中の散歩を日課とするほか、スーパーまでの買い物、地域行事の参加、外食など、利用者の希望も考慮しながら、日常的に外出できるよう支援している。	



あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりひとりの能力により、通帳管理している人、おこづかいを持っている人など、それぞれに管理してご家族に報告。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい人はその都度支援。友人やご家族からの電話も多い。(毎日電話をくださるご家族も多かった)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に光と風が入ってくる空間を作り、きれいな空気の中で過ごし内外で季節を感じられるような環境づくり。	共用のスペースは、採光や風通しが良いスペースとなっており、居心地良く過ごせる空間である。また、外にはウッドデッキのスペースも設けている。浴室やトイレも清潔さが保たれており、通路には転倒の危険となるものは放置せず、安全面にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	内と外に小さな居場をつくり、ひとりになったり、話し込んだり(スタッフとも)できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの品々に囲まれた部屋づくりを心がけているがひとりひとりの症状により、撤去しなければならないこともある。	居室には、使い慣れたものや愛用品の持ち込みを可能とし、家具の配置についても、本人や家族と相談の上決定され、利用者にとって居心地のよい場所となるよう取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できないこと」「わからないこと」ところのみ支援してあげれば、安全の中で「できること」を生かして暮らしていける。		